

目的 本研究は、韓国の農村集落におけるコミュニティ生活について調査し、それがどのようにして発生し、どのような仕組みの中で行われているかについて探り、その実態を明らかにするものである。また、コミュニティ生活とコミュニティ空間の対応を考察することにより、韓国農村集落の特性を見いだすのを目的とする。

方法 集落のコミュニティ生活の中で、特に「契」に着目するために、文献研究と実態調査研究の二つの方法を取り上げた。文献研究は、契に関する文献を対象にした。実態調査研究では、まず調査対象集落における契の現況を把握するため、調査票を用いた訪問ヒアリング調査を行った。また、契が行われる場所はコミュニティ空間として捉え、実測調査を行った。これらの調査から次の点について分析した。

①集落内で行われている契がどのようにして発生し、どのような仕組みのなかで行われているかについて分析した。②集落の性格に着目して、それぞれの比較研究を行い、分析した。③契が行われているその空間を実測し、設置状況、規模、室構成、利用状況、使い方、役割、維持管理について分析した。

結果 ①集落内で行われている契は、高麗時代に発生して住民の自治組織として発達してきた。集落には様々な目的を持つ契が存在し、住民の98%が一つ以上の契を持っていた。②集落の性格により、存在している契の性格も異なっていた。③契が行われている場所としては宗家、セマウル会館、斎室、有司の家などであり、契の種類によって空間の対応も異なっていた。④契は集落住民にとって欠かせないコミュニティ生活の一つであった。